

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 11 日

学生氏名	宇根 萌々子	(学科)	公共社会学科	(学年)	1 年
体 験 先	田川市役所 田川市北保育所				

私は、田川市役所および田川市北保育所で体験をさせていただきました。私がプレ・インターンシップを履修した理由は、私は将来なりたい職業を絞って目標を 1 つに限定してしまったり、特定の考えに固執してしまったりしていたので、職業選びの幅を広げたいと考えたからです。大学生活を送る中で、私は自分の社交性とコミュニケーション能力が不足していると感じていました。

田川市北保育所で1才児～5才児のクラスで、1才児から順に体験したところ、子どもたちは年齢を重ねるごとにできることがどんどん増えていくことがわかりました。子どもの成長の早さを実感しました。また、北保育所では障がい児保育も行われていて、障がいを持つ子どもとそうでない子どもが一緒に生活することによって、自然とコミュニケーション能力が身についたり、相手を思いやる行動がとれるようになったりしていることを知りました。私は、より多くの子どもたちとコミュニケーションをとることを目標に、自分から積極的に子どもたちと関わっていくように努力しました。

北保育所の先生方が、子どもたち一人一人の性格、得意なこと、苦手なこと、好きな食べ物、体調などたくさんのことを把握されていて、子どもたち一人一人に丁寧な対応をされていたことが強く印象に残りました。体調が悪そうな子がいたら、いち早く気づいて体温を測ったり、食事の際にアレルギーを持つ子に対して適切な対応をされていました。私の場合は、1人の子の補助をしていると他の子を見る余裕がなくなっていたので、先生方のように、豊富な経験と広い視野が持てるようになりたいと思いました。最終日の反省会では先生方に、子どもたちと積極的に関わっていこうと思う私の気持ちが子どもたちにちゃんと伝わっていると言ってもらい、とても嬉しかったです。話をすることが苦手だったのですが、自信ができました。

プレ・インターンシップ体験を通して、人との関わりとコミュニケーションの大切さを学びました。また、相手を深く知ろうと人に興味を持つことや、自ら歩み寄って仲を深めようとする事の楽しさに改めて気づきました。冒頭でも書きましたが、私は今まで自分のことで精一杯で周囲がよく見えておらず、他人との関わりを意識していませんでした。プレ・インターンシップ体験によって、自分に足りないものや、社会の中で生きていく上で大事なことを見つけることができたと思います。今後は、様々なことに挑戦して経験を積み、人との出会いを大切にしていきたいと思います。田川市役所の職員の方々、田川市北保育所の先生方、子どもさんたち、大学の先生方、このような貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。この経験を大切に、今後の活動につなげていきたいです。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 5 日

学生氏名	木下つきひ（学科）	公共社会学科	（学年）	1 年
体 験 先	飯塚市役所			

私は、今回のプレ・インターンシップ体験をするにあたり、社会人としてのマナーや実際に働く姿勢を学び、また、公務員を志望しているため、特に市役所の業務内容や地域の方々との関わり方について知りたいという目的をもって参加しました。

プレ・インターンシップに入った 5 日間は毎日違う課で体験をさせていただき、市役所の業務内容について幅広く知ることができました。また実際に働く中では、市民として市役所を訪れるだけでは分からない仕事が多くあることも実感しました。働く姿勢を学ぶ点では、職員の方が資料を印刷する作業を見学させていただいた際に、「紙やそのほかの備品も全て市の財産であるから無駄にしないということをいつも頭において仕事をしている。」というお話を聞き、市役所で働く上では、そのような姿勢が大切だと学びました。他にも、紙のリサイクルの箱が各所に置かれていたり、昼休みの消灯などによる節電が徹底されていたり、市の財産を無駄にしないための様々な取り組みをされていることに気づきました。

プレ・インターンシップ体験中は毎日、庁舎外での仕事に同行させていただき、体験前に抱いていた屋内での仕事が多いイメージとは大きく異なりました。特に、地域振興課とまちづくり推進課での体験では庁舎外での仕事が多く、まちづくりに関わる仕事では実際に街に出て街の様子を知り、市民の方々の声を直接聞くことが重要だと感じました。3 日目の体験では、近くにお店や利用できる交通機関がなく、買い物に行くのが不便な地区に移動販売車が出向く取り組みの体験会に同行し、職員の方々が買い物に訪れた地区住民の方々と積極的に会話をされている姿が印象的でした。しかし、私は住民の方々に対し、普段の生活の様子や移動販売車を利用した感想など、聞きたいと思ったことを自分から積極的に話しかけることは出来ませんでした。この経験をもとに、4 日目、5 日目の体験では疑問に思ったことはすぐに質問することを心掛けました。単に相手の話を聞くだけでなく、自分からも質問をし、感想を述べることで話が広がり、より職場に対する理解を深めることができると感じました。

今回、プレ・インターンシップの体験を通して、これまでは気づけなかった自分の長所やこれからの課題について新たに知ることができました。今回の体験の中では話を伺う機会が沢山あり、その中で、自分は人の話をじっくり聞くことや 1 つのことに理解を深めることが好きであると改めて気づきました。また、課題としては、自分が話をする側になった際に話をまとめたり、相手の方からの質問に的確に答えたりすることが上手くできないと感じました。よって、今後の大学生活では課題の改善に取り組むために、人前で発表をする機会や自分の長所を活かす機会を増やしたいと考えています。また、プレ・インターンシップ体験後は、公務員になりたいという気持ちがさらに強くなったので、職員の方々からいただいたアドバイスを忘れず、目標の実現に向けて頑張りたいです。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 11 日

学生氏名	佐々木 結衣 (学科) 公共社会学科 (学年) 1 年
体 験 先	株式会社ヒューマンライフ

私は将来自分が何をしたいのかという明確な将来の夢がありませんでした。周囲の友人たちはどういう職に就きたいか考えている人が多かったので、なおさら焦りも感じていました。このプレ・インターンシップを通して将来像を見つけ、社会人として「働く」ことの自覚が持てればと思い参加しました。最初は何となく気になっていた民間企業に声をかけてみましたがうまくいかず、今回受け入れてくださったコールセンターは実は第 4 希望の会社でした。正直あまり詳しくない業界、職種だったので最初はとても不安でした。しかし事前訪問に伺った際に、担当の N さんのお話を聞き、これまで抱いていたコールセンターのイメージが変わり、不安が軽減しました。事前訪問の際に N さんは度々“人”を大切にしている会社だと仰っており、またコールセンターの内部にもはじめて入らせて頂きましたが、事務的でドライな雰囲気ではなくアットホームな職場で安心しました。

実際働いたこの 5 日間では、更に“人”を大切にされている企業さんだと感じました。お客様ひとりひとりと真剣に向き合うことをされていて、マニュアルもなくお客様と本音で話すことで信頼関係を築いていました。中には「またこの人と話したい」とご指名頂くお客様もいらっしゃるそうです。お客様の幸せもそうですが、何より従業員の皆様が幸せそうに働いており、ヒューマンライフさんは「関わった人を幸せにする会社」だと実感しました。お客様のためにと一生懸命電話だけでなく、手書きのお手紙や一筆箋など様々な形でコミュニケーションをとっており、ひとりのお客様のために時間や手間を惜しまない姿から、顔も見合わせていない遠く離れたお客様に幸せを与えられることこそが、この仕事の意義であると感じました。

私はこの 5 日間、実際のお客様とコミュニケーションをとることはなかったけれど、様々なロールプレイングを通し、相手を幸せにすることで自分も幸せになると実感しました。ロールプレイングでも、最初の内は住所や注文形態が変わるだけでも私は戸惑っていましたが、回数を重ねる内に、落ち着いてお客様役の方と会話ができるようになりました。最終日にはお客様の様々な情報に合わせて話す「プラスワントーク」もできるようになり、コミュニケーション能力や状況把握能力の向上を実感できました。

今回このタイミングでプレ・インターンシップに参加できたこと、ヒューマンライフさんと出会えたことは、私の人生において大きな転機となりました。今までは何をしたいかに固執していましたが、どう働きたいか、どう生きていきたいかを考える大きなきっかけになりました。その一方今回の 5 日間で、状況把握能力とその上でどう動いていけばいいのかという面においての私自身の課題を発見できました。これから私は、様々な人と積極的に関わり、どのような人生を生きていきたいかを考えていこうと思います。今回このような機会を設けてくださった福岡県立大学、そしてヒューマンライフさん、ありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 12 日

学生氏名	末崎早絢	(学科) 公共社会学科	(学年) 1 年
体 験 先	楠本浩総合会計事務所、福岡県立大学就業力向上支援室		

私がプレ・インターンシップに参加したのは将来どの職業に就くのが漠然としていて分からなかったことが理由です。また、どの業種でも必須の社会人としての常識やマナーを身につけたいと考えました。

私は、本来 5 日間楠本浩総合会計事務所では体験をさせて頂く予定でした。しかし、様々な理由で 3 日間しか同事務所では体験できませんでした。よって、残る 2 日間は福岡県立大学内の就業力向上支援室で体験させて頂きました。1 日目はメールや電話の対応の仕方を学びました。きちんとした対応の仕方を改めて学ぶことで、今までの自分の電話対応が堅かった理由が相手を敬う気持ちや、相手のことを考えた上での作法を知らなかったことだと気付きました。

楠本浩総合会計事務所での 3 日間について述べます。体験の目的は、社会人としての常識やマナーを知ること、会計事務所の仕事内容を通して会計、経済に関することを知ることでした。1 日目は午前には会計事務所の 1 年間の仕事や会計業務に携わる者としてのマナー、守秘義務や税金に関するビデオや説明を受け、午後に業務の 1 つである記帳代行を体験しました。会計事務所の業務内容を知れたことは良かったです。また、暗黙の了解だと思っていた守秘義務が、法律でも規定されている点にはとても驚きましたが、それだけ会計事務所の役割が重要であると認識しました。

2 日目午前は価値観に関するビデオを視聴し、午後は職員の方にインタビューする時間でした。どうして会計事務所で働いているのか、税理士になったのかを質問させて頂きました。私が驚いたのは、インタビューに答えてくださった方には税理士になった特定のきっかけがあったことでした。きっかけが将来に繋がる可能性があり、いろいろなことに挑戦して経験を積んで将来に繋がれば良い、と思うようになりました。

3 日目午前は職員の方にマナー講座を開いて頂きました。お辞儀の練習で無意識に猫背気味だったこと、目を逸らし気味だったことを指摘して頂き、それらを改善することと、第 3 者に見てもらうことの重要性を認識しました。午後は経営状況を説明するためのプレゼンソフトの入力と実際のプレゼンを見ました。入力する際は項目ごとの数字の意味が全くわからなかったのですが、実際のプレゼンテーションは分かりやすくなり、比喻や図、アニメーションを加えることの利点を学びました。

5 日間で 2 ヶ所のインターンシップを体験させて頂き、大学生活の間にいろいろなことに挑戦して経験を積んで今後に繋げようと思いました。最後に私を受け入れてくださった就業力向上支援室の方々、楠本浩総合会計事務所の方々に感謝します。自分のためにも、私を成長させるために指導して下さいました皆さんのためにも頑張りたいと思います。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 令和 元年 8 月 24 日

学生氏名	鈴木 沙弥香 (学科) 公共社会 (学年) 1 年
体験先	田川市石炭・歴史博物館

私がプレ・インターンシップに参加しようと思った理由は、就職に関してしっかり考えようと思ったからです。私は、これまで自分が本当にやりたいことについて深く考えてきませんでした。実際に職場の空気に触れ仕事を体験することで、自分の将来について考えるきっかけを作れるのではないかと思いますこの講義を履修しました。

体験先の田川市石炭・歴史博物館で、私は明るい挨拶をしようと心掛けました。朝の職場に入るときや受付で、職員の方や入館した方に対して失礼のないようにしました。一方、受付などの仕事で、ミスをしたり不安になったりすると、冷静な判断ができなくなり慌ててしまうこともありました。また、博物館の職員の方からの指示を待つことが多く、自分から動くことができないときもあったので、もっと自分から声をかけて行動すればよかったと少し悔しい気持ちがあります。

体験中に最もやりがいを感じたのは、親子が参加するイベントの運営の補助をしたときです。来場者の方々と一緒に作品を作ってコミュニケーションをとったことや、参加した方に「ありがとう」と言われたことに、とても嬉しさを感じました。この仕事を通して、いろんな方と関わることが仕事のやりがいになることを実感しました。

その他、プレ・インターンシップで学んだことは、お客様をはじめとする相手への気遣いです。受付では、頂いた入館料はすぐにしまわず、手元に置いておくことや、ブログ作成で読み手が読みやすいように文章の区切りを多くつけ、同じ言葉は極力使わないというような工夫をすることを教わりました。とても細かいことなかもしれませんが、こういった学びを通して自分が思っている何倍も相手を気遣うことは大事だと理解しました。最終日には、5日間の体験を振り返る場を設けていただきました。担当者の方が、「分からないことがあるのは普通のことだから、聞くことが大事で、聞かれた側も丁寧に答えるのが義務」とおっしゃっていたことに驚き、自分の認識が改まる大きなきっかけになりました。これまでは、質問を投げかけることは相手の時間を割いてしまうものと思い遠慮していましたが、このような遠慮がどれだけでもつたいないことだったかと痛感し、これからは積極的に質問を投げかけていこうと思いました。

加えて、プレ・インターンシップを通して、私は挨拶、笑顔といった日常の当たり前のことは、仕事をするうえでも重要なことだと分かりました。これからの生活で、この点に留意して生活していきたいと考えています。自分を見つめ直し様々な経験を積んで、やりがいのある仕事について考えていこうと思えました。

最後に、市の施設の見学や出土品整理など、とても貴重で数多くの体験をさせていただいた田川市石炭・歴史博物館さんと、この機会を設けてくださった大学に感謝しています。ありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 8 月 26 日

学生氏名	大西かき (学科) 社会福祉 (学年) 1 年
体 験 先	株式会社クリエイティブジャパン

私は大学生になったにも関わらず敬語や言葉遣い、仕草や態度など、社会に出て必要となるスキルを何も知らないと感じていました。そのためこのプレ・インターンシップでマナーを学ぶことを第一の目的にしました。仕事のやりがいや達成感を学ぶことを第二、第三の目的と考えました。私にとって事前研修は、長所や短所、体験の目的など自分を見つめ直す機会でした。特に、旺盛な好奇心で何にでもチャレンジをすることは、今回の体験で活かせると気づきました。一方、短所として質問力が低いことも明らかになりました。

実際に働いてみると、敬語や正しい言葉遣いなど初めて知ることばかりでした。「恐れ入りますが」「恐縮ですが」などのクッション言葉を学んだことは、これからの実生活にも将来仕事を始めた際にも役に立つと思いました。また、常に会社の一員として、姿勢や笑顔を意識していました。電話対応やお茶出しは自分が受けたとき、どのようにされると印象がいか考えながら対応するのが大変でした。最初は失敗しないようにと注意するだけで精一杯で、慣れが必要だと感じました。さらに、笑顔と協調性の重要性にも気づかされました。笑顔は第一印象だけでなく、信頼関係を築く上でもとても重要だと感じました。協調性については、物事を進める際にお互いが歩み寄る姿勢がなければ上手くいかないと学びました。役場での打ち合わせに同行させていただいた際、職員の方々は相手の意見を尊重しながら計画を立てていて協調性の重要さを実感できました。初めてチラシを作成させていただいた時には私に作成のポイントを1つ1つ説明していただくなど、段階を踏んだアドバイスでわかりやすいご指導を受けました。最終的に、最初に作ったものと完成したものでは伝えやすさ、パッと見たときの印象が全く異なっていて感動しました。さらに初日から5日間を通して電話対応をいたしました。最初は緊張してしどろもどろになり上手く対応できませんでしたが、徐々に慣れていくとある程度スムーズに行えるようになりました。その他にも資料のホッチキス止めをしました。その後その資料を使っているところを見た際に、どのような仕事でも社会の歯車となっているとおっしゃっていた社長さんの言葉を思い出しました。データ入力をして気づいたことは、次の講座やイベントをよりよいものにするためにも、社会調査は重要なものとなっていることです。

プレ・インターンシップで、臨機応変に対応することの重要性を強く感じました。それができるようになるためには何よりも慣れが必要です。今回の体験で学んだことは大学生活においても常に意識して成長したいと思います。将来は多くの人と関わる仕事を希望していますので、特に信頼関係を築くのに必要な笑顔と挨拶をよりよいものにしていきたいと思っています。

クリエイティブジャパンの皆様をはじめ、関係した全ての方に感謝申し上げます。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 10 月 16 日

学生氏名	社会福祉 (学科) 岸田 楓花 (学年) 1 年
体験先	いのちのたび博物館

私は将来就きたいと思っている職業が明確でないことが課題であると考えていたため、仕事について考える機会を持ちたいと思いプレ・インターンシップに参加しました。事前研修があったことにより、社会人としての振る舞いやマナーを身につけられたため、安心して体験にのぞむことができました。また、ブロック研修などにより自分自身と向き合うことができたため、プレ・インターンシップ体験に有意義なものとしてつながったのだと考えます。

博物館の仕事はお客様の案内、事務、学芸員としての調査など多岐にわたっていました。1つの展示を行うためにも調査、企画、資料収集、広報などさまざまな仕事があります。博物館での研修を行い、働くことは責任を持つことで、様々な人の協力があり成り立つのだと気が付きました。私が実際に働いて苦労したことは、状況に応じて臨機応変に対応することです。すべてがマニュアル通りに進むわけではありません。お客様のニーズに沿えるよう、ひとりひとりに合わせた接客をしなければならないと学びました。また、博物館は教育的な学びの場であり、遊びの場でもあるという独特の雰囲気を持っています。日常では学べないことが学べ、体験できる場を提供することに博物館の社会的意義があると感じました。

交流員業務体験を行っているとき、はしゃいで館内を走っている小さなお客様がいました。交流員さんは声を荒げることもなく「走ったら人にぶつかっちゃうと思うな」、「歩いて恐竜さん見られるかな?」と笑顔で声掛けをしていました。この交流員さんは、楽しい思い出を作りに来ているお客様を大きな声で怒ると、怒られた記憶のみが残り嫌な思い出となってしまうと話していました。注意と怒ることは違うこと、接客の基本が笑顔であることを学びました。今回の体験で、誰かのことを考えて行動することが多くなり、人として成長できたと思います。

プレ・インターンシップを体験して多くの人から様々な話を聞くことは、自分の成長につながると感じました。自分とは異なる考えや経験を聞くことにより、自分自身の価値観が広がったり、ものの見方が柔軟になったりしたと感じます。今回プレ・インターンシップに参加したことにより、将来どのような形でも、誰かの笑顔につながる仕事がしたいと思えるようになりました。人を笑顔にするには、まず自分が笑顔でいなければならないと考えます。体験期間中に素敵だと褒められた自分の笑顔をいかして、いつも元気な笑顔で人と接することができるように努力していきます。その一方、自分の短所としては、予期せぬ出来事が起こると慌ててしまうことがわかりました。今後は冷静に状況を分析し、対応ができるように変わる努力もしたいと考えます。今回学んだことを今後の大学生活、将来につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日

令和元年

9月 3日

学生氏名	喜多下七海	(学科)	社会福祉学科	(学年)	1年
体験先	田川市立図書館				

私は大学生活を送る中で、将来社会に出たときに必要な言葉使いや態度、気配りが身についていないことに不安を感じていました。そこでプレ・インターンシップでこれらを少しでも身に付け、不安を解消したいと思い、参加することを決めました。私は社会福祉学科の学生ですが、一度社会福祉から離れた場所で体験をし、さらに図書館を通して人と関わるという新しい視点から仕事について学びたいと思い、田川市立図書館をプレ・インターンシップ先を選びました。事前研修では、挨拶の仕方や表情、電話対応の仕方など実践的な練習をし、主体的な学びを深めていくことができました。

実際に働いて、私の想像以上に図書館の仕事量が多いことに気が付きました。図書館と言えばカウンター業務が主という印象を私は持っていましたが、実際には絵本・紙芝居の読み聞かせや本・CDの配架作業、予約本の貸出や他図書館との本の相互貸借など、私が予想もつかなかった多くの業務が行われていました。職員の方々はこういった多くの業務を協力して手早くこなしており、さらにその中でも利用者の方を第一優先に動いていました。例として、返却された本に傷や汚れがないか確かめる作業の途中でも、カウンターに利用者の方が来られたらすぐにその対応へと移っていました。これは業務において当然のことかもしれませんが、私は手元の作業ばかりに集中してしまうことが多く、周りを見ながら行動することに苦労しました。

体験中、子どもたちに絵本の読み聞かせをしたことが私の印象に残っています。体験初日、職員の方から読み聞かせ向きの絵本の特徴や、読み聞かせ時の絵本の持ち方などのアドバイスをいただきました。その後自分で読みたい絵本を選び、図書館や自宅で何度も読み聞かせの練習を行い、本番に臨みました。私は読み聞かせ中、早口になってしまう傾向があるため、そこを意識しながら練習を重ねました。多くの子どもたちを目の前にするとやはり緊張しましたが、練習の成果を思い出しながら何とか読み聞かせを進めることができ、子どもたちも最後まで真剣に聴いてくれました。職員の方や一緒に読み聞かせをしてくださったボランティアの方からも、ゆっくり読めていたとお褒めの言葉をいただき、嬉しく思ったと同時に、自分の成長を感じることができました。

プレ・インターンシップを通して、今回は特に気配りを学べたと感じています。周りを見て行動することが苦手という私の短所を発見し、今後は常に周りの状況も把握しながら行動しようという意識を持ちました。他方で、私の長所である時間を意識しての行動はおおむねにできていたため、学校生活や社会に出たときにもこの長所を活かし、時間に余裕をもって行動したいです。今回、自分自身を客観的に見つめなおし、さらにこれまで気が付かなかった課題を発見できた機会を与えてくださった田川市立図書館の皆様、本当にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 8 月 21 日

学生氏名	木村 華 (学科) 社会福祉学科 (学年) 1 年
体 験 先	北九州市立子育てふれあい交流プラザ元気のもり

私がプレ・インターンシップを履修した目的は、自発的に疑問をもって「どうしてだろう」と考え、調べるという力を高めるためでした。疑問をもって自分なりに調査し、誰かに質問をすることで、物事の本質が見えてきて、深く理解できます。私は人から話を聞いても納得するだけで、誰かに確認をとったり、自分からは疑問をもったり、もっと深く知りたいと思ったりすることがあまり多くありませんでした。こういった点を改善するためにプレ・インターンシップを履修しました。

体験中は、様々なことに気を付けなければなりませんでした。職員の方々やお客様への態度、時間の管理など、新しく知ることの連続でした。そのなかでも私が最もやりがいを感じたのは、プレ・インターンシップ担当、Kさんのお話を聞き、それを体験中に実践することでした。Kさんのお話は私にとってはどれも新鮮でした。特に印象に残ったのは「元気のもりとは子どものためだけの施設ではなく、子どもと親の両方を支援するためにある。だから、その目的を達成するために館内でのイベントや親のための相談受付、地域ボランティアやNPO 法人との連携など、アプローチの仕方は多岐にわたる」の話でした。このお話から、私がプレ・インターンに行った施設は、親子を支援しながら、地域の組織とのネットワークを築いていることを知りました。

館内の仕組みやイベントなどに親子を支援するものがたくさんあると知った私は、自分への課題として、まず館内においてある物など、これは何のために配置しているのかと疑問を持つように取り組みました。例えば、ある部屋の天井にかけられているレースはどうしてかけられているのかと思い、私は子どもの視点から天井にある機械が見えないようにしたのかなと思いました。でも、本当はそれだけでなく、天井を低くして空間を小さくすることで、子どもに安心感を持たせるためだそうです。私はこの施設内にあるものには物の目的や、本質はそれぞれあるけれど、根底には親子を楽しむせたり、支援したりするためにあると気付きました。だから、それらを達成するための手段は、本当に様々だと思いました。こういったことを繰り返し行って経験していると、目的や本質を捉えることは、問題解決の発想力にもつながるのではないかと私は思いました。体験を経て、疑問を持てるように試行錯誤していく中で、これまでの自分では到底気づくことのなかったことに気付けるようになり、物事に対する新しい視点をもてるようになりました。

プレ・インターンシップは、自分の課題発見の仕方、それに対する解決策の考え方を知ったとても大切な時間でした。今回学んだ、疑問を持つこと、本質を捉え、問題解決に活かすことをまず、今後の大学生活に活かしていきたいです。そして、いずれ社会福祉士に必要な力として習得していこうと思います。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 11 日

学生氏名	染矢菜摘 (学科) 社会福祉 (学年) 1 年
体験先	田川市民会館

私は、大学に入学以降特に将来のビジョンが見えておらず、目標もなく漠然と過ごしており、将来に不安しかなかった。その中で、プレ・インターンシップの説明会に参加し、インターンシップに行くことでビジネスマナーや自分の将来の目標や働くとは何かを知ることができるのではないかと思い参加した。事前研修では、ブロックなどで自分を表現することや自分の意見を言うことの重要性を知ることができた。そして、体験に行くことの不安を解消できた。

実際に田川市民会館で働いてみて感じたことは、この仕事はとても幅が広いということだ。田川市民会館では、子供たちの体験事業、人権教育、貸館業務などが行われており、これまで田川市民会館に行くことはなかったため貴重な経験となった。私は、事業の一つである合宿研修に参加し、人権について子供たちと講座を受ける機会を得た。その研修では、ハンセン病についての講演を私と同世代の方が行っていたのがとても印象に残っている。また私は、これまで黙々と作業することが得意だと思っていたが、業務の一つとしてフックを数えて袋に入れる作業は少し辛いと思い、自分の弱点に気づくことができた。

一方で、体験中、アンケートの意見や感想をワードに打ちこんだ際、丁寧にできていたとよい評価をいただいた。しかし、私はまだブラインドタッチができず、キーボードを見ながらでないと文字が打てず入力が遅いため、その点については課題である。さらに、私は、人に質問するのが苦手で、分からないことがあっても聞かないことが多かったのだが、インターンシップ中は分からないことを質問できた。職員の方は私の質問に丁寧に答えてくださり、私が困ってどうすればよいのか分からないという事態はなかった。講演も集中して聞くことができ、初めて学ぶことも多々あった。

このプレ・インターンシップを通して気づいたことは、公務員という仕事は市役所で仕事を行うだけでなく、市民会館などで私たちの生活が豊かになるようにさまざまな取り組みを行っているということだ。私もこのような、地域住民と関わりながらサポートしていく仕事に就きたいと思った。そのためにも、今日の前にあることを一生懸命取り組み、目標を設定して達成に向けての努力を惜しまないようにしたい。今後の課題は、もっとコミュニケーションを積極的にとること、ブラインドタッチを練習することだ。田川市民会館の皆様の支えで体験に集中できた。緊張している私にやさしく話かけ、質問に答え、毎日送迎をしていただいたことに感謝申し上げたい。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 4 日

学生氏名	竹中志織 （学科）社会福祉（学年）1 年
体 験 先	北九州市立いのちのたび博物館

私は、自分には社会経験が足りないと感じ、今回のプレ・インターンシップに参加した。つい先日まで高校生だったため、社会というものにあまりにも触れる機会が少なかった。そのため、プレ・インターンシップに参加することで経験を積みたいと考えた。最低限のマナーなどは事前研修やキャリア・ハンドブックを通して学ぶことができたが、やはりプレ・インターンシップ初日は緊張した。

私は接客業というと、飲食店やアパレル系を考えがちだったが、博物館にいらっしゃる交流員という職業も接客のプロだと学んだ。初めは想像がつかなかったが、今回の体験を通して確かにプロフェッショナルだと感じた。例えばお子さんとお年寄りへの対応はもちろん違いがある。どんなお客様であろうと臨機応変に笑顔で接する交流員の方の姿を間近で見ることができた。体験期間が夏休みということもあり、家族連れやお子さんのお客様が多かった。お子さんのわくわくした顔や、お土産のぬいぐるみを抱きしめながら楽しそうに退館していく姿を見るだけで、この仕事や博物館には意義があると感じた。

交流員の業務を体験している際に、交流員の方から「声が大きくていいね。」とほめていただいた。初めての体験で緊張しており、どれぐらい声を出せばいいのかわからず、もしかして声が大きすぎるかもしれないと不安になっていたときだったため、この言葉は本当に嬉しかった。この言葉を胸に、体験中はずっと大きな声を出すことを意識した。やはりどんな業務であっても声を出すということは重要なのだと改めて知った。3 人で体験にいったので何か仕事を任されたときに私だけ余ってしまい、やることがないという状況があった。そんな私の姿を見てサボっていると感じられたのか厳しい言葉をかけられることもあった。そのときはそう思われてしまったことを非常に悔しく感じたが、今冷静になって考えてみれば自分から積極的にやるべきことを考えて行動すべきだった。

例えば「声を出して」と言われれば一生懸命出すし、「これをやって」と言われれば自分が持てる限りの力を出してやり遂げる。しかし社会はそれだけでは認めてくれない。自分が今何をすべきか考えて行動する積極性がなければならない。体験中に明るくてコミュニケーション力のある他の学生のことを何度も羨ましいと感じた。しかし羨むだけでは何も変わらない。積極性とコミュニケーション力をつけることが私の課題である。その課題を改善していくためにボランティアやサークルなど今以上に活動する。先輩など年齢の異なる人たちともっと交流していく必要があると考える。家の中にずっと閉じこもっていても何も経験することができない。これからはさらに積極的に外の世界に目を向けていきたい。そして将来は何か病気の子どもたちと関われる仕事に就きたいと考えている。自分の課題を改めて教えてくれた今回のプレ・インターンシップ体験は本当にいいものだった。緊張してばかりだった私を温かく受け入れてくれたいのちのたび博物館の方々にも今一度お礼を言いたい。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 令和元 年 10 月 15 日

学生氏名	谷川 百音 (氏名)	社会福祉 (学科)	1 (学年)	年
体験先	直方市役所			

私が今回のプレ・インターンシップに参加しようと思ったきっかけは、大学生になったらインターンシップに行きたいという思いがあったからだ。通常のインターンシップと比べてまだまだ社会を知らない1年のうちから一足先に社会人としての経験をしておくことで、今度の生活の中で活かせるのではないかと考えたからである。私はプレ・インターンシップを通しての目標を2つ立てていた。1つ目は社会人としての礼儀を身に着けること、2つ目は体験先の企業について詳しくなることであった。

体験先に今回選んだのは市役所である。以前から市役所の仕事には興味があったが私の中では市役所といえば戸籍などの管理をするという事務の仕事のイメージしかなかった。しかし、今回の体験でそのイメージをかなり払拭できた。5日間市役所で働いてみて現在市役所に対する印象は、市民のとても身近で頼れる場所であるということである。市役所の仕事の一番のやりがいは、どの課であっても市民との関わりがあり、市民のためになっているという実感が持てる場所であると感じた。

今回は大きく分けると2つの体験をさせていただいた。1つは企業様の方へ出向いて打ち合わせに参加すること、もう1つは市役所が主催となったイベントに運営側として参加し市民の方と触れ合うことであった。今回の体験で一番苦労したことは、やはり礼儀面であった。普段使わないような挨拶や企業様方との打ち合わせに参加させていただいたが、基本的な礼儀が身につけていないためなかなか自分から発言することができなかった。企業様の方には挨拶を、市民の方には市役所の他の職員のように声掛けをもっと自分から進んでできればよかった。また、市役所の仕事の内容を詳しく知りたいという願望に応えてくださり、庁内の案内や自分自身が社会福祉学科なので社会福祉に関する仕事に就いている方に直接お話を伺う機会を設けてくださった。これらのお陰で市役所の新たな一面についてよく理解できた。

今回の5日間のインターンシップを通して見つかった自分の課題としては『積極性を身に着けること』である。挨拶はもちろんだが、常に視野を広く持ち、今自分が何をすべきかを考えて行動することが必要だと感じた。これらを改善させるためには日頃のアルバイトやボランティア活動で養っていこうと思う。一方、インターンシップの中で気が付いた自分の長所としては『自分の字』である。自分の字というのは、体験日誌を書いた文字をみて受け入れ先の方々が褒めてくださったからである。小さなことでも自分の自信へとつなげていくことは大切だと感じた。また、体験5日目の最後に受け入れ先の方々の前で体験報告をパワーポイントを使って発表を行ったことは自分への自信と成長に大きく繋がった。人前で話すことが苦手な私にとっては十分な刺激が与えられた時間であった。私の要望に合うスケジュールを組んでくださった直方市役所の担当者様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 13 日

学生氏名	西谷杏華 (学科) 社会福祉 (学年) 1 年
体験先	田川市中央保育所

プレ・インターンシップに参加した理由は、社会に出るにあたり何を身につけなければいけないのか、現在の自分には何が欠けているのかを見つけることと、将来の夢が漠然としているので、働くということはどういうことなのかを実際に職場で体験してみたいと思ったからです。そして、体験中に見つけた自分の課題をこれからの学生生活で解決したいと思いました。

保育所では0歳児から2歳児のクラスを体験し、食事の仕方や排せつ、遊び方に違いや成長を感じることができました。食事では、1歳児は先生がおかずを食べやすくしたり食べさせたり、手掴みで食べる子が多かったのに対し2歳児は、自分でスプーンを使って食べる子が多かったという違いがみられました。嬉しかったことは、どのクラスも支援センターでも子供たちが人見知りすることなく寄ってきてくれて一緒に遊ぶことができたことです。まだ話すことができない子供に自分から言葉を使ってコミュニケーションをとることは難しく感じましたが、話かけてみると伝わり、きちんと理解してくれたことも嬉しかったです。そして、子どもの安全を守ることも保育士の重要な仕事であることが分かりました。昼寝の時の呼吸やおもちゃの誤飲、段差から落ちないようにするなど気を配ることはたくさんありました。

反省会では、積極性や元気よく挨拶すること、コミュニケーション、座り方などのマナーについて指摘を受けました。積極性は、指示を待つのではなく今自分がしなければいけないことを考え行動したり、分からなかったら先生に聞くということです。コミュニケーションについて、子どもは話せなくても言葉や表情で伝えたいことが理解できたり、心の安定や日本語の知識の積み重ねにつながるため、子どもの成長にとっても重要であり、積極的に行う必要があるということです。また、先生方に元気に挨拶したり話かけたりすることなども大切であることが分かりました。私が体験中に気持ちよく過ごすことができたのは、先生方の些細な気遣いや声掛けがあったこと気づき、小さな仕事でもお礼を言ってくれたり外に出る時に帽子を貸してくれたりなどの心遣いが印象に残っています。

体験を通して分かったことは、積極性や元気よく挨拶するなど、どの職場や場面でも共通する人間の基本的なところが身につけていないこと、足りないことがたくさんあることです。日頃から意識し、もっと何事にも積極性をもって行動していかなければいけないことが分かりました。そして、ボランティア活動に参加し様々な人と自分から関わりを持ち、対人スキルを高めていくとともに、礼儀やマナーなども身につけ、学びを大切にしたいと思います。どのような時でも私がしてもらったように相手を持った心遣いができ、一人一人に合った関わりができるような人に成長したいです。この体験では様々な課題を見つけ、実際に職場で働くことについて多くのことを感じる事ができました。5日間本当にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 6 日

学生氏名	社会福祉 (学科) (学年) 1 年 山口奈那子
体験先	北九州市立子育て支援プラザ元気のもり

私は、自主性と発信力が足りないと感じていました。なぜなら、自分が失敗したらどうしようと思っていたからです。しかし将来社会に出たときに必要になる力だと思い克服したかったので、このプレ・インターンシップに参加しました。

実際に体験をさせていただいて気付いたことは、元気のもりが施設の設置目的に基づいて、様々なところを工夫しているということです。元気のもりは多くの子どもが利用します。そのため、施設内は乳幼児がはいはいをしても安心なように入口で靴をぬぎ、裸足で行動するように設計されており、子どもの目線に飾りがつけられていました。私は子どもが好きですが、子どもの目線からではなく自分の目線で物事を見ていたので、初めは飾りつけに気づくことができませんでした。このことから相手の立場に立つということは、簡単なことではなく相手のことを深く考えて寄り添うということだと考えるようになりました。

体験中には、プレ・インターンシップ担当者の方をはじめ、職員の方々に質問のお時間をとっていただき、すべての質問に丁寧に答えていただきました。そこから、当初の目的であった発信力と自主性を身に付けることができたと考えています。なぜそう考えるかという、質問をすることは疑問を相手に発信することだと思うからです。初日にプレ・インターンシップ担当者の方より『1つのことを考えるときは「なぜ」と3回考えるように』というお話がありました。そのため、体験中の5日間はなぜそうなのかなのかを考えるようにしました。すると、何事にも疑問を持つようになり気になることがたくさん出てきました。知りたいという気持ちが強くなると、どれも聞きたいという気持ちになり、発信力が高まっていったと感じています。さらにそのように発信力が高まるにつれて、困っていそうな来場者に積極的に声をかけること、イベントの説明することなどが自主的にできるようになったと感じています。初めは自分から声をかけていくことができなかったのが成長できたと実感しました。

最後に私の長所は、相手の話をしっかり聞けることだと改めて知ることができ、短所は、大勢の人の前で話すことが苦手だと今回の体験で知ることができました。将来私は社会福祉士として働きたいと考えています。そのためには人の話をしっかりと聞きその人が何を伝えようとしているのかを理解する必要があると思います。今回改めて分かった長所は、講義で知識を身に付け、ボランティアに積極的に参加し学んだことを実践して伸ばしていきたいです。また、短所は大学生活の中で積極的に発表の機会を増やし克服していきたいです。

お忙しい中受け入れてくださった元気のもりの皆さん、大学関係職員の皆さん、このような機会を与えていただきありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 11 日

学生氏名	梅原 聡吾 (学科) 人間形成学科 (学年) 1 年
体 験 先	株式会社トーン

私は大学生になるまでアルバイトなどの就労の経験が無く、自分には社会についての知識や経験が大いに欠落していると感じていました。そのため、今のうちに少しでも多くの経験を得て、将来的に社会へと繰り出す際に糧にしていきたいと思い、今回のプレ・インターンシップに参加しました。また、それと並行して内気という自身の性格的側面に関しても、何か変化が得られないかとも考えたことも理由の一つです。

株式会社トーンは、筑豊地域に特化したフリーペーパー「ChikusKi」を編集・発行を行う他に、ポイントサービス「CHIKUSKIPASS」の運営、WEB サイトの運営、イベントの計画・実行、また、デザイン会社としての業務も請け負っており、その業務内容が非常に多岐にわたっています。そのため、限られた人員で多くの業務を遂行するためには、一人一人に多種多様な作業をある程度こなす高度な対応力を求められます。5 日間の体験期間内で、多くの作業を体験させていただきましたが、専門性を有するものが多く、慣れていない自分には難しいことも多くありました。また、発行日という絶対的な期限がある中での作業というのは、常に進捗状況と予定の管理が必要となる、非常に緊張感のあるものだと感じました。しかし、そういった苦労の末生まれてきたフリーペーパー「ChikusKi」は、地元に取り組み、筑豊に住む人たちから広く認知され、内から外への情報発信への重要な役割を担っていることを感じました。

プレ・インターンシップ期間中、大きく分けて、普段の業務を疑似的に体験する、実際の業務の一部をお手伝いさせていただく、業務に同行しその様子を見学するという3種類のことを体験しました。この中で特に、本格的な Canon 製のミラーレス一眼レフを使い、写真を撮り、それをもとにフォトショップでの加工を体験するというものが印象に残っています。女性社員の方をモデルに写真を撮ったのですが、撮る側の自分のほうが異様に緊張してしまいました。しかし、完成した写真は、自画自賛ながらそれなりに様になる出来栄えだったと思います。これらの体験を通して、実際に職場の雰囲気に触れたことで、社会人としてのマナーやチームとして協力して仕事をする上で大切さというものを知ることが出来ました。

今回のプレ・インターンシップ体験を通して、多くのことを新たに知識として得ることが出来ました。また、自分にとっての課題やこれからやるべき事も知ることが出来たと感じました。自分は、いまだ内気なことがあるためそれを変えられるよう、今後は様々なことに挑戦していきたいと思います。幸い大学生にはそれなりに時間が用意されているため、多くのことに参加するには最も適していると思います。株式会社トーン様には、今回、多くの貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日

2019 年 9 月 2 日

学生氏名	金丸 芽生	(学科)	人間形成	(学年)	1 年
体 験 先	田川市美術館				

私がこれまで感じていた課題は、自分から積極的に人と関わろうとしないことや時間にルーズなところ、そして受け身な姿勢です。昔から自分に自信が持てず、いろいろと考えすぎて結局行動できないまま終わってしまうことが多々あったので、そんな自分を変えたい、やり遂げたと誇れる何かを増やして自信をつけたいと思い、今回、プレ・インターンシップに挑戦することにしました。事前研修では、正しい敬語や受入先への電話のかけ方、名刺の受け取り方など、これまで意外と教わってこなかった基本的なマナーなどを学ぶことができました。また、ブロックを使った授業もあって、思っていたよりも堅苦しくなく、楽しんで取り組むことができました。

実際に美術館で 5 日間仕事をしてみて一番感じたのは、コミュニケーションの重要性です。美術館の仕事は美術館の中だけではなく商店街や市役所、空港など外部での活動や、SNS での広報活動など幅広く行われており、そこでは外部との連携がカギとなるからです。田川市美術館では、郷土の美術作品の振興と発信、市民の創作意欲高揚などを目指して、作品の収集・保存、研究、公開、教育普及などの活動を行っています。これらは美術館の基本的な役割であると同時に社会的意義でもあり、また、どうすればより多くの方が美術に興味を持つようになるのかを考えて工夫をすることは、美術館で働く上でのやりがいにもつながると思いました。

今回の経験を通して、ハキハキ喋ることや声の大きさ、トーク力などコミュニケーションの基礎をまず見直す必要があると感じました。ただ、こういったものは短期間ですぐに身につくものではないし、重要なのは「慣れ」と「意識」だと思うので、5 日間で学んだことを活かし、今後は自分から周りの人と積極的に関わるようにして、コミュニケーション力を伸ばしたいと思います。また、今回美術館でインターンシップ体験をしなければたぶん一生知らなかったであろうこともたくさん学べたので、これからは、今までチャレンジして来なかったようなことや、自分のあまり知らない新しい分野にも興味を持って取り組んでみようと思いました。逆に、受入先の方からは返事と指示を待たずに行動できているという点をほめていただきました。個人的には、時間にルーズなところを直すために、当たり前ではありますが 5 日間一回も時間に遅れないようにしようということを最初の目標にしていたので、それをしっかり達成できたのがよかったと思います。

至らない点ばかりでたくさんご迷惑をおかけしてしまったにも関わらず、職員の皆様は優しい方ばかりでいろんなところで支えていただきました。田川市美術館でインターンシップ体験ができて本当に良かったです。今度はお客さんとしても行きたいです。ありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 R 1 年 8 月 2 8 日

学生氏名	神垣るな (学科) 人間形成学科 (学年) 1 年
体 験 先	株式会社さくらトータルライフ

私はこれまでの大学生活において、円滑なコミュニケーションをとること、社会人になるうえでのマナーを課題としていました。それは、大学に入学し、親元を離れて一人暮らしを始めた際に自分の常識のなさを実感したためでした。今までは難しいと思ったことはすぐに両親に丸投げしていました。しかし、自らの状況が理解できたとき、このままでは社会人はおろか、一大学生としてもやっていけないのではないかと思い、一年生の内に、ある程度何でもできるようになっておくために、この体験に参加しました。また、将来対人援助職に就こうと考えているので、人との関わりが大切な体験先に行きたいと考えました。

今回インターンシップ体験をさせていただいて気が付いたことは、会社は社員一人一人の仕事のおかげで成り立っているということです。私は、いつもならばお客様側の立場に立っているので、会社の表側しか見えていませんでした。しかし、今回裏側を見せてもらい、実際体験したことで、社員の皆さんの普段は見えない努力の積み重ねによって、私たちは安心して家探しから施工、土地の管理まで住居に関すること全般を任せられていたのだと分かりました。社員の方々は、「みんなが笑顔になる企業」を目指していると仰っていました。その理念を実現するために日々努力し、感謝されることがやりがいとなっていると感じました。

私は、体験初日にマナー研修をしていただき、あいさつの大切さについて学びました。あいさつをすることで、お客様はもちろん、社内の雰囲気も良くなります。それがチームワークの向上、ひいては業績の向上に繋がるのだと教えていただきました。しかし、私はなかなか気持ちの良いあいさつをすることができませんでした。声が小さかったり、あいさつをするタイミングを逃して言えずじまいになったりしていたのでした。そんな時に「お客様にとってはあなたもこの会社の一員です。気付くのが遅くなくても声をかけないよりはずっといい」との指導を受けました。私はそこでやっと今は大学生ではなく、会社の一員としてふるまわなければならないことを自覚し、恥ずかしさやただ仕事をこなせばいいという考えを改め、お客様にしっかり向き合うことができるようになりました。そしてその後は丁寧で気持ちを込めたあいさつを心掛けるようになりました。

プレインターンシップを通して改めて気付いたことは、目的をもって、それに向かって努力することが、最終的な目標の実現に繋がるということです。たまに自分はなぜそこに向かっているのか立ち返ることで、モチベーションの維持に役立つことが分かりました。今回、私が体験を行った企業は現在目指している職種とは異なります。しかし、人々を助け、笑顔にする仕事という点では同じです。学んだことを活かし、対人面でのスキルに役立てていきたいです。さくらトータルライフ様、5日間本当にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 10 日

学生氏名	角田 綾夏	人間形成学科	1 年
体験先	福岡県立社会教育総合センター		

私が、プレ・インターンシップ体験に参加した理由は2つあります。1つ目は、仕事をする上での言葉遣いやマナーを身につけたいと思ったからです。事前研修やキャリア・ハンドブックを通して、アルバイト先で自分が間違えた言葉遣いをしていたことに気づき、学ぶことができました。2つ目は、臨機応変に対応できるようになりたかったからです。学校生活では、授業など、毎日決められたことしかしないため、臨機応変に行動しなければならない機会が少なく、私自身、臨機応変に行動することを苦手に感じていました。これらの理由から、私は、プレ・インターンシップ体験に参加することを決めました。

体験先の「福岡県立社会教育総合センター」は、主催事業の準備や事務作業のほかに、退所点検や野外炊飯の補助など、利用者対応もありました。職員・指導員の方々が、利用者の方の対応を優先して動いていた姿を見て、臨機応変に行動することの重要性がわかりました。私は、最初、受け入れ先の皆さんの素早い対応についていくのに苦労しましたが、次第に素早く行動することができるようになりました。また、福岡県立社会教育総合センターは、子どもたちの可能性を引き出し、教育関係者の育成のための主催事業を綿密に計画していることを知り、教育分野で重要な役割を担っている施設であることを感じました。

体験期間中、中学校や小学校の利用団体が多く、生徒の方と関わる機会がとても多くありました。野外炊飯の補助・点検や退所点検の時、最初は、作業にしか集中することができていませんでしたが、指導員の方に、「褒めたり野外炊飯がどうだったかを聞くと良い」というようなアドバイスを受け、時間が経つにつれて、積極的にコミュニケーションをとることができるようになりました。また、私は自分の意見を主張することが苦手なのですが、主催事業で、制作予定の作品について提案した改善策を、指導員の方に褒めていただくことができ、とても嬉しかったです。これからも、意見交換をする場面で、積極的に提案できるように意識していきたいと思います。

私が、プレ・インターンシップ体験を通して気づいた長所は、空いた時間を有効に使うことができる所です。短い待ち時間に、次の作業がスムーズに始められるように準備をしたり、その日の出来事のメモを書くことができていたからです。一方で、体験中に感じた課題は、人前でスムーズに話すことです。職員の方に、挨拶をするときに、緊張で噛んでしまうことが多かったので、今後、人前で話す場面では、言いたい内容を頭の中でしっかりと整理して、落ち着いて話せるように、改善していきたいです。私は、保育士を目指しているので、今回の体験で学んだ子どもとの関わり方を将来の夢に向けて活かしていきたいです。お忙しい中、5日間もプレ・インターンシップ体験を受け入れてくださり、本当にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 6 日

学生氏名	藤本実桜 (学科) 人間形成学科 (学年) 1 年
体 験 先	北九州市立自然史歴史博物館いのちのたび博物館

私は以前から積極性の無さに課題を感じていました。プレ・インターンシップは積極性を鍛える良い機会だと思い参加しました。ビジネスマナー研修では、自信がなかった敬語の使い方や、名刺の受け取り方などを学びました。身近にいる大人になかなか教えてもらえないようなことを学び、体験先に行く前に不安を解消することができました。

いのちのたび博物館で体験させてもらったのですが、私が想像していた仕事と異なることがいくつかありました。まず、学芸員の仕事は机に座って研究しているイメージがあったのですが、実際はどちらかというと肉体労働でした。また、博物館は静かで交流員の人も静かに働いているイメージがありましたが、大きい声ではきはきとお客様にアナウンスをしていました。当然と言えば当然なのかもしれませんが私はそこに驚きました。体験先で苦労したことはお客様の対応です。1 日目は博物館内をあまり把握していない中、お客様にトイレやスタンプの場所を聞かれることが多く、きちんとした対応をすることができませんでした。2 日目以降は館内のトイレの場所など聞かれそうなものをできるだけ把握し、落ち着いて対応できるよう努めました。MT 業務体験では新しい取り組みのお手伝いをしたのですが、お客様に提供するまでに失敗の積み重ねがあるのだと知りました。私は今まで失敗することを恐れていたのですが、失敗がないと成功はないのだと気づかされました。博物館の仕事は地道な作業が多かったのですが、その隠れた作業によりお客様を笑顔にさせることにやりがいを感じました。

私は自分では手先が不器用だと思っていたのですが、掲示物を作っている際、器用だと褒められ自信に繋がりました。交流員業務体験では、声を出してお客様を呼びかけることをしました。私は初日声を大きく出すことができませんでした。しかし、最終日は声掛けが上手だとお褒めの言葉を頂きました。人前で何かをすることが苦手だった私にとって大きな自信になりました。ショップ体験では自分の意見を述べる場を設けていただいたのですが、言葉にするのが得意ではないので良い経験になりました。しかし、うまく伝えることができなかったのが悔しい思いをしました。日ごろから伝えることが大事なのだと感じました。

プレ・インターンシップを通して私は、突然の出来事に対応できないことに気づきました。自分の考えを述べる時も話してる途中で自分が何を言っているのか分からなくなる時があることも気づきました。慌てず落ち着いて対応できるようにすることが今後の課題であると感じました。しかし、長所がなにもないと思っていた私にとって長所を見つけることができ、プレ・インターンシップを履修して本当によかったと思いました。このような機会を設けてくださった先生方、体験を受け入れてくださった受け入れ先の方々には感謝しかありません。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019 年 9 月 14 日

学生氏名	牧 海月 (学科) 人間形成 (学年) 1 年
体験先	有限会社ラピュタファーム

私は小学校 5 年生のころから保育士になるという夢を持っていたため、他の職業の方がどのように働いているのか知りませんでした。そのため、このプレ・インターンシップは保育以外の職業を学べるチャンスだと考え参加しました。また、私は次にすべきことを自分で見つけて行動に移すということができていないと感じていたため、その部分をこの体験で身に着けることをこの体験の目標として掲げました。

体験初日はレストランの作業の流れを覚えることに頭がいっぱいでお客さんやスタッフの方の動きを見ることができていませんでした。2 日目は前日の動きを思い出しながら自分のできることは自分から行動するようにしていました。しかし、スタッフの方に「これ後でいいよ」「お客さんの対応お願い」など声掛けされることが何度かあったので、自分がしていることよりも優先すべきことまで考えて行動できていなかったことに気付かされました。お客さんにより良い空間を提供するには、今すべきこと、次にすべきことは何か常に考えながら動くことが求められるのだということが分かりました。また、お客さんが待ち時間が長かった時などのようにあまり良い気分で来店されていない時も、お食事が終わり帰られる際には「ごちそうさまでした、また来ます」と笑顔で帰られていく姿を見て、この仕事のやりがいにはレストランに来店された全てのお客さんを笑顔にできることだと思いました。私は初日、2 日目と連続でもっと大きな声で挨拶するようにと注意されました。一度注意された後からは大きな声で挨拶をすることを心掛けました。それでも、2 日目にもう一度注意されたのはなぜなのかスタッフの方々の動きを見ながら考えました。観察していると、スタッフの方が挨拶すると裏で作業している他のスタッフの方がその挨拶に反応して挨拶をしていることに気付きました。私はそこで、自分の挨拶の声が小さいといわれていた理由が分かりました。裏にいるスタッフの方はお客さんの状態を見ることができていないため、挨拶の声によって表の状況を把握していたのです。そこに気付いてからは私も裏のスタッフの方まで声が届くように挨拶をするようにしました。すると、スタッフ同士の連携にうまく入れず戸惑うことが多かった私がスムーズにその連携に加わるできるようになり、作業効率が上がりました。挨拶一つにも大事な役割があることを知り、私が何気なく教えられてやっていること全てに何かの意図があるのだなと思いました。そのためこれからは、与えられた仕事でもただ淡々とこなすのではなく、それをやると何の役に立つのか、それをする事でどのような効果があるのかしっかりと考え把握して作業していきたいと思います。

ラピュタファームの方々は皆さん温かく、朝の开店準備をしている時や休憩時間の時に話しかけてくださるので緊張も少し和らぎ楽しく体験を終えることができました。私の将来の夢は保育士です。今回の体験で学んだスタッフ同士の連携の取り方やお客さんを第一に考えた接客の仕方を活かして子どもたちに接し、子どもたち皆が笑顔で一日を終えられる保育を提供する人になりたいと思います。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 令和元年 9 月 10 日

学生氏名	村田野々夏	(学科)	人間形成	(学年)	1 年
体 験 先	社会福祉法人豊徳会 児童発達支援センターきらり				

私は将来、発達障害などを持つ方の家族や身近な支援者の心のケアや相談支援がしたいと考えており、講義で学ぶだけでなく実際に発達障害を持つ子ども達と関わり理解を深めたいという思いと、今の自分に社会人として足りていない課題を発見するために参加しました。

実際に子ども達と接してみると、大学の講義で学んだ知識とは違ったものを学ぶことが出来ました。まず、子ども達はそれぞれ発達の段階や特性が異なり、コミュニケーションをとるうえで一人一人に合った支援をしなければならないということです。私は年少クラスを担当させていただいたのですが、その中でも単語で話せる子と話せない子などそれぞれでコミュニケーションをとる方法が異なり、子ども達からの声掛けを理解することだけでなく自分が子ども達に伝えたいことを伝える難しさも感じました。そして試行錯誤しながら様々な方法で挑戦してみることが、この仕事のやりがいにつながる部分なのではないかと思いました。

この5日間の体験の中で徐々に子ども達と距離が縮まっていくことを実感しました。1 日目は私自身子ども達とどのように接すればよいか分からず、なかなか話しかけることが出来ませんでした。しかし、周りの先生方からアドバイスなどをいただき少しずつ話しかけ方やタイミングなどのコツをつかみ、積極的に話しかけられるようになりました。話しかけることが増えると子ども達からも話しかけてくれることが増えました。1 日目には全く目が合わず 2 日目に話しかけてもコミュニケーションをとることが難しかった子が 3 日目から徐々に目が合い始め、5 日目にはその子から私に話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。なかなか言葉を発することが出来ない子たちとコミュニケーションをとることの難しさを感じると同時に、子ども達と少しでもコミュニケーションがとれたことは私にとって自信になりました。

また、今回の体験で社会人として自分自身に足りていない「積極性」という課題を発見することが出来ました。体験中どうすればよいか分からなくなった際、私は何もできずに黙ってしまうという場面が多くありました。日が経つにつれて少なくなっていたものの、最終日の振り返りでも担当者の方から積極性についてご指摘をいただきました。今後、何か活動に参加する際は分からなかったらすぐに質問するなど、積極的に行動しようと思いました。また、全てを一遍にこなそうとせず、一つ一つスモールステップで達成し、また次の目標を立てていくということを意識していきたいです。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 令和元年 9月 13日

学生氏名	村橋なあこ (学科) 人間形成学科 (学年) 1年
体験先	株式会社楠本浩総合会計事務所

楠本浩総合会計事務所では、会計事務所についてのビデオを見たり、記帳代行や SHIP の入力を体験したり、企業訪問に同行させていただいたりして、会計事務所の仕事について知識を得ることができました。体験を通して、会計事務所の仕事は、守秘義務を守ることが徹底し、お客様の問題を自分の問題として捉え、共有し、解決する、という責任とやりがいのある仕事だと感じました。

体験 4 日目は、テプラを使ったラベル作成と、4、5 年分の書類のスキャンとデータ保存を行いました。ラベル作成では、貼ってしまった後に自分の作ったラベルが少し間違えていることに気づくということがありました。その時に、社員の方に「少しでも迷ったら聞いてくれていいからね」と言われ、確認することの大事さを痛感しました。また、書類のスキャンをしている時は、少しずつ慣れていったので自分なりに 1 番早くできると考えた方法でやっていましたが、社員の方からのアドバイスで、自分が要らないところを丁寧にやってしまうことが分かりました。その時社員の方からは、私が任された仕事はどういう目的があって生じた仕事なのか、その目的のためにはどう動けば効率よく処理できるのか、ということについて教えていただきました。仕事を依頼されたら、ある程度のところで自分が勝手に受け止めてしまうのではなく、ゴールをイメージして、そこに到達するまでの手順をしっかりと組み立てることが必要だと知ることができました。

5 日間の体験を通して見えた自分の弱みは、積極性が足りないこと、取り繕って自分自身を抑えすぎてしまっていることです。担当の方には、「最初は真面目な印象で、それもよかったけれど、もっと自分を出していいのに」と言われました。これからの私の課題は、自分を解放できるように様々な出会いや体験を積んでいくことです。自分に蓋をして取り繕ってばかりいるような人にならないようにしたいと思います。また他にも、社会で必要とされる抽象的思考力を身につけたり、自分の人生を支配している価値観を高められるようにしたりすることが目標として見つかりました。私は今、将来ついてぼんやりとした考えしか持てていませんが、今回の体験で実際に社会で働いている方々の姿を見ることができて非常に刺激を受けました。

私は今回の体験を通して、人間的な成長への第一歩となるという点にインターンシップの意義があると感じました。今回体験に参加していなかったら、自分の弱みを自覚できるのはもっと遅くなっていたと思います。1 年生のうちに知れたことに感謝して、これからまだまだある大学生活で自分の内面を高めていけるようにしていきます。

最後に、今回の体験にあたり、事前研修などで指導して下さった先生方、たくさんのサポートをして下さった就業力向上支援室のお二人、そして大変貴重な機会を与えて下さった楠本浩総合会計事務所の皆さま、本当にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日

令和元年 10月 30日

学生氏名	安川 智花 (学科) 人間形成 (学年) 1 年
体験先	田川市立図書館

私は自分の将来の姿を思い描くことができず不安を感じていました。こんなに不安を感じるのは私が働くことの知識がないからではないか。そしてそれは関係した働くことについて真剣に向き合ったことがないからではないかと考え、プレ・インターンシップに参加することにしました。田川図書館を希望した理由は、小さなころ身近で憧れた大好きな本にかかわる仕事について知りたかったからです。事前研修では、私が最も大事にしているのは自分や世間のことを知ることでそのために働きたいと思っていることがわかりました。また、労働を今まで人が作ったものを消費してきたことに対する対価として見ていると知りました。

図書館は利用者さんに資料を貸す場所であってイベントなどはあくまで付随するものだと思っていましたが、実際に図書館で体験をさせていただいて本が結ぶ縁というのを感じました。利用者さんの本が図書館にわたること、図書館の本が利用者さんの物になること、さらには図書館の除籍本のリサイクルイベントでは利用者さんから別の利用者さんに本がわたることもあります。「知」と支えるだけではなく、本とのかかわりを通して人とのかかわるための施設でもあるのだと思いました。

業務に関しては日を追うごとにどう振る舞えばいいのかわかるようになっていきました。1日目は、返却された資料の確認をされていて利用者さんへの対応が遅れることが多々ありました。また積極的に利用者さんに関わることができませんでした。しかし、職員さんに椅子に山積みになっていた本がトラブルの種になりそうだったのでカートの導入を提案することができました。つづく2日目もこなせる量や積極性をペアと比べて焦って手順をミスしてしまいました。迷惑にならないスピードで確実にを行うことを意識して成績を競っているわけではないのだと自分に言い聞かせました。そのかいあってか3日目には、こなせる量も積極性も差がほとんどない程度になりました。またそのことで余裕ができたのかカウンターの人数や忙しさをみて排架しにいくなど状況に合わせて行動できました。うまくいくようになったからこそ業務を切りのいいところまで終わらせようとしてしまうので切り替えに少し時間がかかってしまいました。4日目、パソコンで資料を管理しているのでどの作業か間違えそうでした。とったメモをもとにもう一度まとめなおして間違えないようになりました。そして迎えた最終日、自分から困っていそうな人に声をかけることができるようになるほど積極性が身につきました。

この体験を通して苦手なのをいいことに向き合うことから逃げていたことに気付きました。向いていないから、慣れていないから出来ないではなくてそんな状態でもどうすれば出来るようになるか、克服できるかを考えて行動できるようになりたいです。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 令和元年 9月 12日

学生氏名	吉岡佑香 (学科) 人間形成 (学年) 1 年
体験先	社会福祉法人豊徳会 児童発達支援センターきらり

私は将来相談援助職に就きたいと考えています。不登校の問題には、発達障害が関わっていることがあると大学の講義で学びましたが、自分の中で発達障害について具体的にイメージできないことに気が付きました。そこで、児童発達支援センターきらり様にて、5日間プレ・インターンシップ体験をさせていただきました。

体験先では、児童発達支援を主に体験させていただきました。体験の初日には、子どもたちにどう接して良いかわからず、戸惑うことも多々ありました。子どもたちと関わる中で、支援を必要としている子どもたちは一人一人特性が違い、その日の調子や周囲の状況によって示す反応が異なることがわかりました。その子のペースに合わせた声掛けや支援が必要であるということが学べました。発達障害には個人差があると大学の講義で学びましたが、実践的に理解できました。その子のペースで成長していく様子を見守ることができるということにやりがいを感じました。体験中に色の概念についての理解はまだないと思われていた子が声掛けによって理解できるようになっていました。5日間しかない体験中にこういった成長の瞬間に立ち会えたことに大変感動しました。

体験中に、幼児にどう声を掛けたら良いのか悩みましたが、体験先の方から、「ほめること」について教えていただき、そこから、ほめることを起点として幼児と関わることができました。また、体験中には豊徳会様の入所施設やグループホームなど、他の事業所を見学させていただいたり、意思決定支援や相談援助支援についての講義をしていただいたりしました。利用者さんの権利擁護についてしっかりとコンプライアンスを設けていらっしゃる、利用者さんのことを第一に考えることが福祉の現場で最も大切であるということがわかりました。さらに、仕事や福祉の現場の空気感を体験させていただき、大変勉強になりました。

この体験を通して、発達障害を持つ子どもとの関わり方や仕事に対しての意識について、学ぶことができました。支援を必要とする子どもとの関わり方で重要だと感じたのは声掛けの仕方です。タイミングや表情、声色、視線など様々な要素があり、難しい点だと思いました。子どもをよく観察し、積極的に声を掛けていくことが必要だと感じました。してはいけないと注意するばかりでなく、いいことをほめていくことがその子の自己肯定感を養い、社会で生きていく上で必要となるということに職員の方のお話の中で気が付きました。また、社会人としての根幹的なマナーである挨拶や言葉遣いの重要性について学べました。挨拶や言葉遣いは、利用者さんとの信頼関係や職場の雰囲気、印象に関わっていると学べました。初歩的なことですが、とても大事なことなのでこれから意識していこうと思いました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日

2019 年 8 月 27 日

学生氏名	木村 羽咲（学科）公共社会（学年）2 年
体 験 先	田川市立図書館

私は今まで、インターンシップのような取り組みに積極的に参加することはありませんでした。なぜならば最後までやり遂げられる自身がなかったからです。そのこともあり、私は将来仕事をしている自分が想像できずにいました。このままではいつまでたっても自立できない子供のままだと危機感を抱いたこと、困難に立ち向かえるような自信を持ちたかったことが、プレ・インターンシップに参加した理由です。

そして、図書館で働きたいという目標があったため、田川市立図書館で体験しました。主に心掛けたのは、自分一人では何らかの処理を行った場合、スタッフの方々に処理の仕方があっているか確認することでした。また、業務を早く覚えられるように細かくメモを取り、積極的に実践しました。しかし、パソコンの操作が中々覚えられずに苦労したこともありました。日々趣味や学習で利用される方々を見ながら、本が人にとって身近なものであることを改めて感じ、利用者の方々が快適に本や学びに触れられる環境をつくるのがこの仕事における主な役割だと感じました。

体験中の活動で特に強く印象に残ったのは、絵本の読み聞かせやお助け講座のお手伝い、予約確認の電話です。絵本の読み聞かせでは、私自身楽しくできたことやボランティアの方にお褒めいただいたことは嬉しかったのですが、個人としてはその場の年齢に合わせた絵本の選出で、臨機応変な対応に欠けてしまったことが反省の点となりました。また、「図書館を使った調べる学習コンクール」のお手伝いをするお助け講座でも、その場にいる子どもの年齢や性質に合わせて助言や補助をしていくことが、程度においても接し方においても難しく、話しかけてはみたものの有意義な接し方はできていなかったように感じました。予約確認の電話では、緊張で頭の中が整理できておらず、間が空いてしまい、答えに困ってしまうなど、うまくできたとは言い難い結果でした。しかし、スタッフの方々は話しかけに行く積極的な態度を褒めてくださったり、また失敗を慰めてくださったりと、温かい心遣いをしてくださり、大変嬉しく感じました。

今回の体験を通して確認できた自分の長所は、いつまでも躊躇わないこと、時間を意識して行動できることです。課題は、メモと傾聴の同時進行が苦手であること、状況把握とそれに基づく臨機応変な行動をとる能力に欠けていることだと感じました。一見簡単そうに見える作業でも、慣れないうちは意外なところで分からなくなることも少なくないので傾聴とメモを同時進行する能力は身に着けるべきものであり、身近なことでは座学中に講師のお話をメモする癖をつけようと思いました。また、臨機応変な姿勢は数をこなさなければ身につかないものだと思うので、ボランティアへの参加や日々の生活の中で状況を考える癖をつけることを積極的に行おうと思います。

この度はお忙しい中、私どもを受け入れてくださり誠にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 2019

年 9 月 5 日

学生氏名	古賀美紅	(学科) 公共社会学科	(学年) 2 年
体験先	須恵町役場		

私は、大学生活を一年半過ごしてきて公務員という仕事に就きたいと考えるようになった。しかし、実際に公務員の仕事がどういうものかということすら全く知らず、ただ漠然としか考えていなかった。そこで、私は実際に自分の将来について具体的に考えていきたいと思い、今回のプレ・インターンシップの受講を決めた。

実際に五日間体験してみて、役場という仕事が課によって様々な形で住民の方々と関わっていることを知った。以前は、役場といえば住民票を取りに行くためであったり、選挙のために行ったりすることでしか行く機会がなかった為、あまり住民の方々とは関わらないのではないのかと思っていた。しかし、このインターンシップを通して役場がどれほど住民の方々と深く関わっているのかを体験することができた。私がインターンシップを体験した五日間の間に警報が出されるほどの大雨が降った。私は生まれてからずっと須恵町に住んでおり、様々な警報が出されたことはあっても大きな被害が出たというような話は聞いたことがなかった。それを普通に何も思わずに過ごしてきたが、役場の職員の方が警報などが出たときは被害を出さないために、どんなに外がひどい状況でも町を見回って危険なところがないか探し、事前に危険な所には被害を防ぐための対策をしているという話を聞いて、私たちが安全に暮らしているのは役場のおかげであったことに気づいた。自分の危険よりも住民の安全を確保しようとする役場の職員の方々の姿勢に感動すると共に、例え、目に見えない形であっても住民の安全を担っている役場の仕事はとてもやりがいがあると実感した。

今回のインターンシップでは、公務員の業務内容を知ることができたのはもちろんであるが、それと同時に自分の課題を知る良い機会となった。私は今回のプレ・インターンシップは他の受講生とは違い、須恵町役場さんが行っているインターンと一緒に参加させていただくという形で、周りはほとんどが三年生であった。その三年生の方々と一緒にグループで話し合ってまとめるというような機会が多くあり、もともとグループで自分の考えを他人に上手く伝えることが苦手だった私は三年生の先輩方のしっかりとした意見におされてなかなか自分の意見を言えず悔しい思いをした。この悔しさを忘れず就職で後悔しないためにも、日頃の学校で行っているグループワークなどで積極的に自分の意見を主張していこうと思った。

この須恵町役場で体験した五日間は、私にとって、将来を具体的に考える手がかりをくれた貴重なものであった。公務員になるか迷っていた時もあったが、須恵町役場の職員の方々の話を聞いたり、実際に体験したりしてとてもやりがいを感じ、私も心の底から公務員になりたいと思った。このように思わせてくれた須恵町役場の方々、刺激を与えてくれたインターンシップと一緒に受けた先輩方に感謝したい。そして、この体験から見つけた課題を克服し二年後の採用試験では自信を持って挑みたいと思う。

プレ・インターンシップ体験報告書

2019 年 9 月 5 日

学生氏名	堀江 香里 (学科) 公共社会学科 (学年) 2 年
体 験 先	株式会社麻生情報システム 飯塚事業所

私は大学生活の中で、積極性、コミュニケーション能力が不足していると感じていました。体験を通してのその 2 つを向上させたいと思い、プレ・インターンシップに参加しました。また、実際に職場の雰囲気を体感した上で社会人になる際、今の自分に足りないところは何か自覚したいと思っていました。事前研修では、グループの中に自分しか 2 年生がおらず戸惑いましたが、積極的に話していくうちに徐々に会話が弾むようになり、自分から話しかけることで雰囲気も明るくなることを学びました。

実際に体験先でも社員の方同士が会話をたくさんしており、それにより会社の雰囲気も良くなり、仕事を円滑に進めることができるのだと気づきました。社員の方々と会話をする中で将来のためになる話をして頂けたので、話を聞くことの大切さも学ぶことができました。大変だと感じたことは、小学校や中学校の授業で使うためのパソコンの設定を行う作業でした。何十台ものパソコンの設定を決められた時間までに終わらせるために、いかに効率よくできるのかを考える必要がありました。設定を何のために行っているのか、という説明をしていただいたことで誰のためにこの作業を行っているのかという自覚が芽生え、より作業へのやる気も上がりました。私が行っていた作業はパソコンの管理をするためにとても重要なことであり、それらは学生の方に届けられ、使ってもらえるということにやりがいを感じることができました。

体験中、パワーポイントの資料を作成する機会があったのですが、その際社員の方に何度も質問をし、迷惑をかけてしまいましたが、優しくご指導して下さいました。作成している際に社員の方々は私のことを気にかけて下さり、進捗状況を確認するとともに褒めて頂き、とても嬉しかったです。見本となるものに近づけるために今まで自分がパソコンを通して学んだことを駆使して図形を使ったり、それを加工したりするなど努力しました。また、途中まで仕上がったものを一度印刷し、見本と比べてみてどのように違うのかアドバイスを下さいました。そのおかげで形にすることができ、とても達成感がありました。

プレ・インターンシップを通して、積極性とコミュニケーションは重要なものだ改めて気づくことができ、私は積極的に質問することや社員の方と会話することでその 2 つが成長したと感じました。今後の課題は主観的に物事をみるのではなく、客観的にみることを意識して生活することです。例えばアルバイトなどでお客様のことを考えながら作業したり、同じ従業員たちのことを考えたりするなど、まずは日常生活から視野を広げるようにしたいです。受け入れ先の麻生情報システムの方々には本当に感謝しても仕切れないほどです。私自身のことを理解しようとしてくれ、いつも優しく話しかけて下さり嬉しかったです。本当にありがとうございました。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日 令和元年 8月 30日

学生氏名	丸本桃夏	(学科) 公共社会学科	(学年) 2年
体験先	飯塚商工会議所		

私は、飯塚商工会議所でプレ・インターンシップを体験させていただいた。

私はこれまでの大学生活で社会人の方々と接し、話す機会が少ないことに不安を感じていた。そこで、就職した際に社会人としてのマナーや言葉遣いなどに困らないよう、プレ・インターンシップの受講を決めた。

事前研修では、2人ペアになり電話対応の練習などを行い、プレ・インターンシップや将来に向けての不安を解消することができた。また、プレ・インターンシップの直前に行ったブロック研修では、ブロックを使って自分の内面を表現することで、今まであまり考えてこなかった自分の特徴や内面、短所、長所など、細かなところまで考え見つけ直すことができた。

私は、プレ・インターンシップを体験する前は、自分に積極性がある方だと思っていた。しかし、実際に働いてみると受け身になるばかりで、任された仕事をやるだけになってしまっていた。仕事をどう発展させて次に繋げるか、ということに苦労した。

体験前は、飯塚商工会議所の仕事内容は事務的なことが多く、どちらかといえば公務員に近いものだと考えていた。しかし、働いてみて地域の方々との交流が多くあり、人と人との繋がりを大切にする職場だと実感した。

最終日にお手伝いさせていただいた「はじめてのおつかい」というイベントの前日には、イベントに携わってくださる商店街の方々一軒一軒に丁寧に挨拶回りをしたり、子どもたちに配る地図と同じものなどを配布したりした。暑い中、笑顔で地域の方々に挨拶をして回る職員の方は、本当に人と人の繋がりを大切にし、楽しんでやっているのだと感ずることができた。

体験2日目からさせていただいた電話対応は、はじめは緊張したが「笑顔で取るとリラックスできるよ」という職員の方のアドバイスをもとにやってみた。落ち着いて電話を取ることができ、少しの会話だが、徐々にできるようになった。

このプレ・インターンシップを通して、学校生活で長所として見られることが職場では通用しないことがあるということを学ぶことができた。職場では、自分で長所だと思っても、その長所をもう一段階成長させないと長所として見られない、ということが多くあった。

これからは、自分の長所をより伸ばしていくためにどうすれば良いのかを日々考えながら生活したいと考える。